

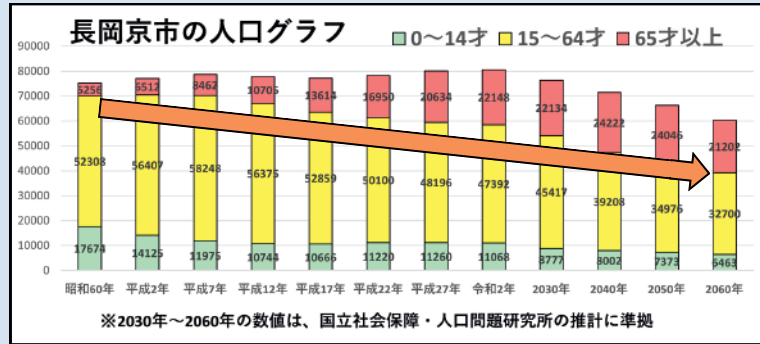
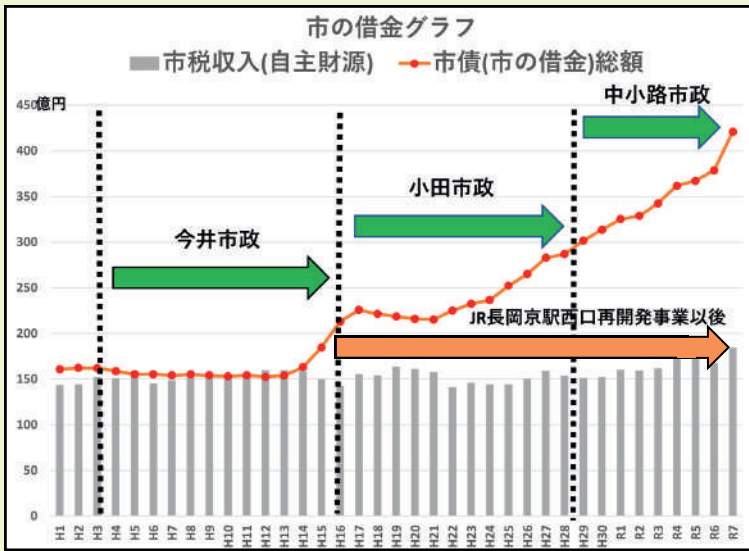
こたに宗太郎



阪急長岡天神駅西側単独再開発 **NO**
高架化を最優先 YES

1 赤の折れ線グラフは、市の借金を示したグラフです。JR長岡京駅西口再開発事業に関する支払いが始まった平成15年度から、市の借金が急激に増え始めていることがわかります。また、市税収入が落ち込んでいないため、長岡京市の身の丈に合っていない不必要な規模の投資と、それによって増えた維持管理費や人件費などが、借金増加の主な要因だといえます。

2 このグラフは、長岡京市の人口の変化を表したグラフです。超少子高齢化によって、生産年齢人口が減少している状況がわかります。このグラフでは合計特殊出生率を1.44（※2024年 1.15）で計算しています。



そのため、何もしなければ、このグラフの推計よりも悪くなるのがわかっており、若い世代ほど、借金の負担が増えることとなります。巨額の投資が必要な都市開発は、必要最小限にしないではけません。

次の世代に、ちゃんとした長岡京市を繋いでいくために!!

これから3小、長中、神足小、5小（4校で約200億円）と建て替えが続いていく中、現在市は、4半世紀前のJR西口再開発（約210億円）と同じ再開発を、高架化と関係の無い阪急長岡天神駅の西側地区で行おうとしています（公共施設設置を考慮しない段階で300億円超）。こんなことをしてしまうと、また高架化が半世紀先延ばしになってしまいます。JR西口再開発と同じ失敗を繰り返してはいけません。最優先にすべきは、阪急長岡天神駅の高架化（350億円）です!（阪急高架化や阪急長天西側再開発については、HPにあるピラ No.66、67を参照）

こたに宗太郎
プロフィール

1972年 長岡京市に生まれる/53才/5小、4中、西乙に通う

1997年 大阪工業大学1部 工学部 経営工学科卒業

1999年 関西大学大学院 工学研究科 管理工学専攻修了、工学修士/近畿大学附属高等学校 数学科講師として2年間勤める

2001年 長岡京市議選に挑戦、当選し4期14年務める

2017年 道の駅建設計画の廃止を訴え市議に復帰/道の駅建設計画を無くし、コロナ対策や経済支援対策などを実現し、現在6期目

01 阪急長岡天神駅の高架化事業推進

踏切による交通渋滞の解消、通行の安全確保及び東西市街地の分断解消のためにも、阪急長岡天神駅の高架化は必要です。全ての条件が整ったとしても、阪急長岡天神駅高架化に都市計画から開業まで最短で約30年かかります。人口8万人の長岡京市で高架化事業を実現可能にするためには、事業期間を最短にし、事業総額を最低にする必要があります。300億円以上かけて、高架化事業と関係のない西側単独再開発をするのではなく、阪急長岡天神駅西地区と東地区の包括的な開発事業計画を策定し、高架化事業を前進させるべきです。

02 長岡京駅と山崎駅間にJR新駅を提案

JR新駅を誘致することで市南部地域の利便性を向上させ、企業流出防止や生産年齢人口の増加による税収増が実現できます。（※JR新駅の提案の背景等を知りたい方は、ぜひHPにあるピラNo.65やプレゼン資料等を御覧ください。）

03 子育て支援で人口増加を

高齢者が増加しつつある長岡京市では、子育て世代の定住を促進することで、生産年齢人口増加につなげていく必要があります。長岡京市を選択してもらうために、おむつ支給、赤ちゃんの駅、ホットタイムサポーター制度、子育てパスポートの導入、幼児同乗用自転車購入費助成などの子育て支援を充実させることが必要です。

04 高齢者を孤立させない街づくりを

2025年問題の到来で、孤独を感じるひとり暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯の増加が予想されます。高齢者の孤立を解消し、地域との関わりを深めることができる、ふれあい型食事サービス事業を提案します。バランスの取れた食事を提供し、交流ができる食事会や配食サービスによって高齢者の心と体の健康を支えます。

05 市民の健幸寿命を延ばすために

日本人の死亡原因の約6割を占めるのは、生活習慣病です。また2人に1人はガンにかかる時代ですが、ガンは早期発見、治療によって9割が治ると言われています。長岡京市では、肺ガンや胃ガン検診について、対象者の1割も受診していません。特定健診とガン検診の同時健診を行ったり、土日に実施するなどして、受診率の向上に向けた取り組みが必要です。

06 公共施設の総合管理の最適化

市にとって都市開発の次にお金がかかるのが、公共施設の整備・維持管理です。4小や新庁舎の支払い、3小や長中の建替えなどが避けられない長岡京市では、財政状況の悪化と硬直化が進んでいます。公共施設の残存耐用年数の調査を含む耐震再調査を行い、最大限に機能を維持し、長寿命化を促進させるためにも、最適な公共施設等総合管理計画を打ち出す必要があります。

これまでの成果と提案（一部）

これまで85回の一般質問や約132万枚のピラ発行等によって、多くの問題提議や提案を行い、沢山の成果を挙げる事ができました。ぜひHPを御覧ください。

- ▶道の駅計画を無くす！！（ピラNo.48、49、50、2017年12月議会一般質問、2018年3月議会一般質問、総括質疑、土地取得費約30億円、建設費18億3350万円、維持管理費年1億2183万円/65年、合計127億5245万円の無駄削減、2017年公約実現）
- ▶JR長岡京駅西口再開発で市営ホテル構想をやめさせ、50億円を超える税金の無駄使いを防ぐ（2002年9月議会一般質問等）
- ▶小中学校大型改修・改築・耐震化、市の最優先課題に（2003年3月議会一般質問等、問題発議者）⇒これが長岡京市の総合計画や長岡京市公共施設等総合管理計画、長岡京市公共施設等再編整備構想などの市の根幹となる計画を大きく変える
- ▶新型コロナウイルス感染症対策の経済支援対策、実現（2021年9月議会一般質問、2022年6月議会一般質問など）
- ▶取っ手付き指定ゴミ袋の実現（2021年12月議会一般質問、2022年大山崎町長選挙、ピラNo.61、No.64）
- ▶長岡京市公共施設整備基金の条例改正と利活用（2023年3月議会可決、現時点約5億円の運用、2012年3月議会一般質問など）
- ▶訴訟により、企業系収集ゴミの減免制度廃止（年約5000万円の歳出カット[試算]、ピラNo.36参照）
- ▶小学校の早朝開放の提案（2024年12月議会一般質問）
- ▶小児救急医療所の設置提案（2019年9月議会総括質疑、2022年12月議会一般質問など）
- ▶西代里山公園の駐車場増台へ（2025年9月議会補正予算計上13台分、2025年3月議会予算審査常任委員会、2025年3月議会討論）

